



やるきほんききさき
木佐木

神奈川県議会議員
日本共産党

2026.5.20
木佐木たまたさ news
 発行：党横浜北東地区委員会
 横浜市鶴見区潮田 3-147-6
 TEL：045-511-1021

Profile
 ▶1984年(41歳)山口県出身
 ▶鶴見区馬場在住
 ▶神奈川大学法学部卒
 ▶よこはま健康友の会会長
 ▶横浜東民商顧問

対策会議で見た現場の実態と解決への道筋

中東情勢などによる影響

中小企業を苦しめる**資材不足**と**流通**の壁



5月19日 中東情勢や日産生産縮小などが県内に与える影響対策協議会

5月19日、県庁で「中東情勢や日産自動車生産縮小影響対策協議会」が開催されました。この会議は、昨年の日産による生産縮小発表や緊迫する中東情勢など、相次ぐ経済の荒波から県内の中小企業や労働者を守るため、県が先んじて立ち上げたものです。国、県、市町村、経済団体が一体となり、現場の実態をすばやく把握し、実効性のある具体的な支援策を練る目的で開かれました。

日産の生産縮小による影響

大企業の事業見直しが地域に及ぼす波紋について、関係自治体から生々しい声が上がりました。

- ・横須賀市「車の部品メーカーは取引先を広げて対策していますが、工場内の食堂に食材を納めているような地元の小さな業者には、大変な大打撃になります」
- ・平塚市「労働者は九州工場への配置転換が前提とされていますが、親の介護や子育てなど家庭の事情で、どうしても地元を離れられない人たちの雇用が本心に心配です」
- ・県知事「支援策はありますが、現場の事業者からは見えにくいのが課題です。事業者目線の仕組みづくりを急ぎます」直接の下請け企業だけでなく、そこで働く人々の暮らしや周辺の商売にまでしわ寄せがいく実態が浮き彫りになりました。

さらに、中東情勢などに端を発する「モノ不足」や物価高騰についても、経済団体から切実な実態が語られました。

・横浜商工会議所「物価高の分を価格に上乗せできるようになるまでの間、一時的な減収を乗り切るための『つなぎの資金繰り支援』が短期的にどうしても必要です」

・中小企業団体中央会「とにかく安く仕入れようとする一部の動きによって、流通に『目詰まり』が起きています。普段から適正な価格で取引していれば防げる問題です。また、行政が仕事を出す『官公需』の安く抑えることを追求する発注のあり方も見直す必要があります」



【木佐木の視点】

先日、県議団として中小業者の皆さんと県の担当課の懇談に同席し、コロナ禍なみの危機という実態を伺いました。「せっかく事業が上向いてきたのに、発注した資材がいつ納入されるかわからず、仕事を受けられない。」など、政府の供給は足りているというアナウンスだけでは現場を救うことはできません。県内だけでも20万社ともいわれる中小業者が倒産の連鎖という最悪の事態を回避するためにも、コロナ禍なみの対策を行うよう求めていきたいと思います。ぜひ切実な声や実態を教えてください。必ず議会で届けて県を動かすよう力を尽くします。

YOUTUBEでも紹介しています⇒

